

地域共生社会における介護サービスの新たな可能性

—多様なサービスの構築・地域社会とつながるマネジメント—

氏名：武智 薫

指導教員：松永 裕己

筆者はリハビリテーション専門職である理学療法士として、医療・介護の現場に従事してきた。その間、2000年に介護保険制度が開始され、介護業界は、高齢化率の増加に伴い、多様な経営主体が参入する事により、拡大を続けてきた。しかし、昨今の人口構造やライフスタイルの変化、人と人、地域社会とのつながりの希薄化といった社会的背景により、個人が抱える課題は多様化・複雑化している。サービスを受ける個人への対応だけでなく、世帯全体での支援が必要なケースも増えており、対象者や生活に必要な機能毎の公的福祉制度だけでは十分に支援することが難しい状況である。2016年6月に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」では、新たな福祉ビジョンとして「地域共生社会の実現」が掲げられた。「地域共生社会の実現」の為に、地域社会の多様な主体が、分野を超えてつながり、地域社会全体で包括的支援体制を作りあげる事が求められている。しかし、つながりの希薄化が進んでいる現代社会において、多様な主体が分野を超えてつながる為には、適切なマネジメントが重要であると筆者は考えている。

そこで、本研究では介護業界の分析や動向、筆者が勤務している介護保険事業所の所在地である北九州市における介護保険サービスの実情をまとめ、介護保険制度における介護サービスの課題を考察した。また、地域社会の中で筆者の勤めるような介護保険事業所が、制度や分野の枠を超えてつながり、包括的支援やつながりの再構築を可能とする具体的なマネジメントの在り方、地域社会とのつながりに筆者が重要であると考えている、つながりの「場」と「人」に重要な要素を、先行事例へのインタビュー調査を基に考察し、提言する事を本研究の目的とした。さらに、介護保険事業所が地域社会とつながる事によるメリットが、単に地域貢献や地域での新規利用者の獲得だけでなく、介護保険制度における本来の目的である要介護者の尊厳の保持と自立支援につながっていることに着目し、新たなサービスの可能性について考察した。